

#6 LEXUS TEAM LEMANS WAKO'S

WAKO'S 4CR LC500

Kazuya OSHIMA

Kenta YAMASHITA



Team Le Mans

2019年 SUPER GTシリーズ Round.4 チャン国際サーキットレースレポート



大会概要

2019年スーパーGTシリーズ 第4戦

大会名称

2019 AUTOBACS SUPER GT Round 4 Chang SUPER GT RACE

開催日時

6月29日 土曜（予選） 6月30日 日曜（決勝）

開催サーキット

チャン・インターナショナル・サーキット（1周 4.554 km） 所在地：タイ国ブリーラム県

同時開催レースカテゴリー

タイ現地のレースを前座戦として開催

主催

BURIRUM UNITED INTERNATIONAL CIRCUIT

公認

国際自動車連盟（FIA） / THE ROYAL AUTOMOBILE ASSOCIATION OF THAILAND（RAAT）

認定

株式会社GTアソシエーション（GTA）

後援

経済産業省 / 国土交通省 / 自由民主党モータースポーツ振興議員連盟 / 在タイ日本国大使館 / 日メコン交流年2019



◆ #6 LEXUS TEAM LEMANS WAKO'S 参戦体制

■ ドライバー



大嶋 和也
KAZUYA OSHIMA

生年月日 1987年4月30日
出身地 群馬県
身長 171cm
体重 61kg
血液型 RH+A

■ 監督



脇阪 寿一
JUICHI WAKISAKA

生年月日 1972年7月29日
出身地 奈良県
身長 177cm
体重 63kg
血液型 RH+AB



山下 健太
KENTA YAMASHITA

生年月日 1995年8月3日
出身地 千葉県
身長 175cm
体重 63kg
血液型 RH+AB

■ スタッフ

チーフエンジニア 阿部 和也
チーフメカニック 寺尾 由貴

■ スポンサー

株式会社和光ケミカル	株式会社ニチネン	トヨタカスタマイジング&ディベロップメント株式会社
株式会社前田シェルサービス	引田時計店	トヨタ・ヤング・ドライバーズ・プログラム
株式会社オウルテック	広島化成株式会社	トヨタ自動車株式会社
DMG森精機株式会社	エンバイヤ自動車株式会社	株式会社ブリジストン
株式会社三笠製作所	株式会社不二WPC	
林テレンプ株式会社	リンテック株式会社	
株式会社タミヤ	株式会社アシックスジャパン	



◆ 予 選

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	33度 (GT500クラスQ1開始時)
路面温度	39度 (GT500クラスQ1開始時)
予選開始	現地15時20分 (GT500-Q1開始)



SUPER GTシリーズ第4戦は海外ラウンドとなり、タイのチャン・インターナショナル・サーキットで開催される。当地での開催は6年連続6回目だ。ここはチームとエースドライバー大嶋和也にとって得意中の得意といえるコース。2015年大会から2位～3位～2位～2位と4回連続表彰台である。また、今季チームに加入した山下健太も、他チームで走った昨年、このチャンで3位表彰台を得ている。あらゆる視点から好相性の舞台といえよう。前戦の鈴鹿では優勝を争いながらも今季初表彰台3位という結果にとどまっただけに、調子の良さは持続し、惜しくも勝利できなかった悔しさをバネにチャン戦で飛躍したい。ウエイトハンデ（獲得ポイント×2kg）も28kgなら、勝利を狙っていける範囲だ。まずは予選で前方グリッド獲得を目指す。

#6 WAKO'S 4CR LC500

予選結果：1位＝ポールポジション（予選Q1ベストタイム：1分24秒163／大嶋選手）

（予選Q2ベストタイム：1分23秒260／山下選手）

ドライコンディションでの予選、Q1には大嶋が出走し、8位でQ2進出を果たした。そして大嶋が持ち帰ったインフォメーションを得たチームは、阿部エンジニアを中心にマシン戦闘力アップのための変更措置を施す。そのマシンで山下がQ2に出走、見事に新記録タイムをマークしてポールポジション獲得を決める。「大嶋選手とチームのおかげです」と山下が語るように、チーム一丸の力によって今季初ポール奪取が達成された。



◆ 決 勝

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	33度（スタート時）
路面温度	48度（スタート時）
決勝レース開始	現地15時00分
レース周回数	66周（約300km）



#6 WAKO'S 4CR LC500（大嶋和也選手&山下健太選手）

決勝結果：優勝（所要時間：1時間44分12秒812／ベストラップ：1分25秒603＝大嶋選手）

決勝もドライコンディションでの戦い、#6 WAKO'S 4CR LC500は大嶋がスタートを担当し、ルーティンピット後を山下が受け持つオーダーで臨む。

大嶋はスタートから首位を守って走り続けた。最初は19号車、次は36号車と、同じレクサス勢のマシンが背後に迫るが、これをしっかり押さえて走る。ピットイン直前の29周目に36号車の先行を許しはしたが、似たようなペースのマシンを相手に、大嶋は自身のスタントの大半をトップで走りきった。そして30周終了時、36号車とともにピットへ。ここでメカニックたちが素晴らしいピット作業をした結果、36号車より前でのコース復帰が叶う。

山下も36号車からの追撃を受けるが、懸命に防戦。すると後方でアクシデントがあり、38周目を走っている時にセーフティカー導入となる。42周終了時にセーフティカーが撤収、すると今度は37号車が山下を追いかける位置に上がってきて、またもやレクサス同士のトップ争いが激化する。完全に並びかけられる場面もあったが、山下はトップをキープし続けた。そしてトップのまま最終66周目を終え、チェッカーフラッグを受ける。

今季初優勝。2016年に協阪監督率いる現在のチーム体制になってから、表彰台獲得やシリーズ上位成績は幾度もあったが、待望の初優勝が達成された。しかもこれでドライバーズポイントでは大嶋&山下が首位に浮上。次の富士戦からはウエイトハンデが燃料流量リストラクター調整併用域に入るためマシンパフォーマンスを引き出すのは大変になるが、このポール・トゥ・ウインを弾みに、シリーズタイトル獲得に向けてチームは歩みを進めてゆく。



大嶋和也選手のコメント

今のチーム体制では初めての優勝を飾ることができ、本当に嬉しく思います。応援してくれてきたみなさんに、ようやく恩返しことができました。今日の自分のスタントはいいレースができていたんですけど、最後に抜かれたことは悔しかったですね。でも、チームが素早い作業で逆転してくれて健太もすごくいいレースをしてくれました。次からハンデの面では厳しくなりますが、当面は取りこぼしをせずにポイントを獲得していきたいです。

山下健太選手のコメント

前半スタントでほぼトップを守りきってくれた大嶋選手の戦いを見ていて、ライバルたちも速いので決してラクではないな、と考えていました。そしてチームの素晴らしいピット作業のおかげで実質トップでコースインしてからは、「このポジションは絶対に守らなければ」と思い、頑張りました。36号車、37号車との戦いでは、絶対に引かない、という気持ちでした。勝ててホッとした、そんな感じです。とにかくチームに感謝したいです。

阿部和也エンジニアのコメント

ポールポジションを獲れたことが大きかったですし、レースではメカニックたちが良い作業をしてピットで順位を逆転できたことがハイライトでした。ドライバーふたりもよくやってくれましたよね。大嶋は前半、よく耐えてくれましたし、山下も36号車、37号車との戦いをよく押さえてくれました。優勝という目標を達成でき、チームのレベルも上がってきています。ハンデが厳しくなる次戦以降も、今度は王座獲得に目標を切りかえて頑張ります。

脇阪寿一監督のコメント

ドライバーふたりは神経戦のような厳しいレースを戦い抜きましたし、エンジニアはいいクルマをつくり、メカニックはいい作業をしてくれました。それぞれがそれぞれに頑張り、「人が人のことを思い、プロの仕事をした結果」として、今日、我々は勝つことができたと考えています。もちろん、まだ課題もたくさんあります。我々のクルマが後ろから来たら、相手が“やられる”と思うくらいの常勝軍団になってほしいですからね。でも、今日は優勝という目標を成し遂げたみんなを褒めてあげてください。ドライバーズポイント首位になり、これから先はもっと厳しい戦いにも直面すると思いますが、そこでさらにチームとして成長しながら、応援してくれるみなさんへの感謝を示せる結果を出していけたら、と思っています。

シリーズランキング

大嶋和也&山下健太 1位 / 35ポイント
チーム部門 2位 / 45ポイント



◆その他サーキット内イベント報告

◆観客動員数

開催期間中 延べ入場者数 約-- , ---人

6月29日 土曜 (予選日 天気:晴れ) -- , ---人

6月30日 日曜 (決勝日 天気:晴れ) -- , ---人

◆ピットウォーク

開催日程 6月29日 13:15~14:15

6月30日 11:50~12:35

主催 GTアソシエーション、チャン国際サーキット
 参加者 大嶋和也、山下健太

ピットロード開放エリアにて握手&サイン会、撮影会、グッズ提供等を行ない、今回もたくさんのお客様をお迎えすることが出来ました。決勝レース開始前にはグリッドウォークも実施されています。

